令和6年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	建設緑政局道路河川整備部河川課	要素事業所管課	建設緑政局道路河川整備部河川課
----------	-----------------	---------	-----------------

1 計画の概要

計画の名称	災害に強く豊かな環境を育む安全・安心な地域づくり（防災・安全）	計画の期間	令和2年度～令和6年度
計画の目標	都市化が進展し、河川氾濫域における人口・資産の集積化が進む本市において、市民を洪水や浸水の被害から守るため、時間雨量50mm相当の降雨に対する治水安全度の確保を図る。 併せて、多自然川づくりにより都市環境の向上と良好な水辺空間の形成や、施設機能向上を要する河川において護岸の耐震化を図る。		
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水被害対策を実施する地域において、時間雨量 50mm に対する治水安全度の確保を図ることにより、浸水が想定される区域の減少を図る。 ・浸水被害対策を実施する地域において、時間雨量 50 mm に対する治水安全度の確保を図ることにより、浸水想定家屋数の減少を図る。 ・多自然川づくりを推進する河川において、住民参加による事業推進を図ることにより、良好な水辺空間の形成を図る。 		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平瀬川施設機能向上事業（追加） 護岸の変状を生じた老朽化した石積み護岸を地震に強い鋼管杭を用いた護岸に改修する。 ・平瀬川都市基盤河川改修事業（追加） 令和元年東日本台風により浸水被害が発生した多摩川との合流部について背水堤防整備を行う。 		

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況（概要）

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	平瀬川支川都市基盤河川改修事業 平瀬川施設機能向上事業 麻生川準用河川改修事業 他2事業	690,000	1,954,000	1,214,000	62	
B (関連社会資本整備事業)						
C (効果促進事業)						
全体事業費 (A+B+C)				1,214,000 【財源内訳】 国：522,000 県：164,000 市：528,000		

3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	浸水想定面積 (m ²):改修計画を策定した流域における、時間雨量50mmに対する浸水が想定される面積(m ²) 浸水想定家屋数(戸):改修計画を策定した流域における、時間雨量50mmに対する浸水が想定される区域内の家屋数(戸) 水質調査(評価1~3):多自然川づくりを推進する河川の水質について川崎市水環境保全計画の環境目標を基準とする評価			
定義及び算定式	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水想定面積 (定義) 改修計画を策定した流域における時間雨量50mmによる浸水想定面積(算定) 過年度の氾濫解析結果を元に、浸水が想定される面積を算定する。 ・浸水想定家屋数 (定義) 改修計画を策定した流域における時間雨量50mmによる浸水想定家屋数(算定) 過年度の氾濫解析結果を元に、浸水が想定される面積を算定する。 ・水質調査 (定義) 本市環境局が実施している水質等の定点観測値(BOD、COD、生物種等)の変化(算定)「川崎市水環境保全計画」における環境目標を基準とし3段階の評価を実施する。 			
その指標を設定した理由	時間雨量50mmに対する治水安全度の確保に関する指標として設定した。 多自然型の河川整備を実施するにあたり、水遊びのできる川を目指し指標として設定した。			
当初現況値(R2)	中間目標値(R4)	最終目標値(R6)	実績値(確定) (見込)	目標達成状況
95800m ² 127戸 II評価	46700m ² 57戸 II評価	44600m ² 52戸 I評価	48800m ² 60戸 I評価	未達成 未達成 達成
目標達成状況に対する所見	麻生川は柿生橋の架替と護岸改修の進捗により、浸水想定面積及び浸水想定家屋数が大幅に減少したが、平瀬川支川の整備状況により未達成となった。水質調査については多自然川づくりの推進による環境改善への寄与が確認されるなど、目標が達成できた。			
将来の見込み	当該計画に位置付けている継続中の各事業については、今後も着実に事業を推進することにより河川改修が進捗し、治水安全度の向上が見込まれる。			

4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	事業中区間の老朽化護岸の耐震化率 老朽化した護岸を鋼管杭護岸に改修した割合を算出する。
定義及び算定式	（定義）事業中区間の老朽化した護岸のうち鋼管杭護岸に改修した割合 （算定）（鋼管杭護岸延長/事業中区間延長）×100（%）
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	当該地は、住宅密集地域で狭小な掘込式護岸であり、大規模地震が発生し護岸が被災した場合、早期復旧が困難であり、護岸崩壊に伴う河道閉塞により治水安全上の危険を抱えているため、耐震化率を指標とした。（追加事業）
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	一級河川平瀬川で老朽化した河川のうち、事業中区間が168mあり、そのうち、令和3年度～令和4年度で40mの整備を行っていることから、令和7年3月末で整備率は11.9%となり効果を発現している。

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	実施期間 令和6年 8月 7日～ 令和6年8月20日（調査1） 実施期間 令和6年 8月 1日～ 令和6年8月 8日（調査2） 基幹事業の認知、効果、要望について意見を集約する。 調査1：ウェブアンケートにて、市民向けアンケート調査を実施 調査2：平瀬川沿川（工事現場沿川）住民250戸にアンケート 平瀬川の前橋（高津区上作延）にアンケート用紙及び回収箱を設置
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	各事業の認知度が1割程度とのアンケート結果により、認知度が低いため今後も更なる情報発信と周知方法の検討が必要である。また、台風やゲリラ豪雨等の被害が全国的にも増える中、早期の治水安全度の向上への要望が寄せられた。また、ゲリラ豪雨による工事中の安全対策に対する意見もあったため、安全に留意しながら工事を進め、着実に事業を進める。

6 今後の方針等

総合的な所見	河川事業に対する認知度が低いことから、周知方法について見直しが必要である。計画の成果目標の達成状況については、水質調査のみ達成した。浸水想定面積と浸水想定家屋数が未達成となったが、平瀬川支川都市基盤改修事業の用地取得に不測の時間を要したことが原因と考えており、今後も事業の必要性について丁寧な説明を行い、地元の理解を得よう交渉していく必要がある。追加事業である平瀬川施設機能向上事業により護岸の耐震化率が11.9%となったが、今後も引き続き耐震対策を推進し、早期の治水安全度の向上に向け取り組んでいく。
今後の方針	次期計画に向けて、平瀬川支川については河道拡幅を進め時間雨量50mm相当の河道断面を確保することにより治水安全度の向上を図るとともに、多自然川づくりを引き続き進める。三沢川については用地買収を進めるとともに、時間雨量50mm相当の降雨に対する河川改修工事に着手し、治水安全度の向上を図る。麻生川については世田谷町田線の道路拡幅に併せ、残り1橋（世田谷町田2号橋）についても架け替え及び、前後区間の護岸改修を行い治水安全度の向上を図る。平瀬川については、多摩川の水位上昇による背水に備え、多摩川の堤防と同程度の堤防を整備することにより治水安全度の向上を図る。平瀬川（施設機能向上）については、老朽化した護岸の耐震化率を上げることで地震時の治水安全度の向上を図る。 次期計画期間内では平瀬川支川の河道断面が確保できる整備を進め、氾濫解析を実施し整備の成果を確認する。また、成果指標に施設機能向上による耐震化率を加えるとともに、現計画に引き続き、計画全体の目的にあった適正な指標の検討を行う。

次期計画
あり・なし